

## 大学博物館における生物多様性情報発信

大原 昌宏（北海道大学総合博物館）・吉田尚生・山本ひとみ（北海道大学 21世紀 COE「新・自然史科学創成」）

大学博物館は、大学なのか、博物館なのか、微妙な位置にある。

大学人にとっては、自らのアピールの場（展示・教育普及）や収蔵庫として自由に使える博物館であり、逆に博物館にとっては、大学人という研究者・教育者の膨大な人的資源を自由に使える好環境にある。一般市民にとって、大学研究室は敷居が高いが、博物館であれば親しみがある。大学人は一般への情報公開がヘタであるが、博物館は上手である。

これらの利点を生かすように企画されたのが、北大総合博物館と COE「新・自然史科学創成」の共同による『電子博物館』<sup>1</sup>のサイトである。入口は、やさしい言葉の「学ぶ・調べる」であるが、奥に入ると生物学と地球科学分野の自然史研究の専門的な個別のデータまでが参照できるヴァーチャル博物館になっている。

「学ぶ」の内容は【教育】サイトで、生物多様性の認識方法である分類学を一般市民向けに説明している。「パラタクソノミスト養成講座」は、実際に北海道大学で行われている 2 日間の実習コースであるが、その講座内容がサイトで見られるようにしてある。コースは、初級・中級・上級に別れており、初級は小学生から参加でき、上級は大学院生レベルである。講師陣は基本的に大学教員である。現在まで、昆虫・魚・哺乳類・鳥類・植物・キノコ・原生動物・岩石・鉱物・鉱石・鉱床の分野の標本ハンドリングと分類方法について、実習を行ってきた。中級・上級は教員・学芸員のリカレント教育としても活用されている。

「調べる」の内容は【研究】サイトで、専門家が使うデータベースを主とし

---

<sup>1</sup> 電子博物館：

<http://neosci-gw.museum.hokudai.ac.jp/html/modules/auth/index.php/index.html>

ている。現在は、「化石標本」、「昆虫標本 (SEHU)」、「中根コレクション (昆虫綱甲虫目)」の3つの標本データベースと、「日高山脈の自然史」の地域自然史情報データベースがある。昆虫関係では、タイプ標本の画像・記載データの公開を行ない、多様性研究の基礎となるデータを提供している。(北大総合博物館のデータベースサイトには、他に魚類、植物、鉱床のデータベースがある)。

本講演では、『電子博物館』の内容を中心に、大学博物館から発信している生物多様性情報の具体例をお話する。

北海道大学  
21世紀  
COE

新・自然史科学創成  
自然界における多様性の起源と進化

目次

- 電子博物館
- COEホーム

学ぶ

- 自然史データの計り方
- 標本の作り方・調べ方
- パラタクソノミスト養成講座

調べる

- 自然史系学術標本リスト
- データベース検索
- フィールドノート
- サイト内検索

検索  
検索オプション

# 電子博物館

学ぶ 調べる

自然史データの計り方  
標本の作り方・調べ方  
その他の読み物

自然史系学術標本リスト  
データベース検索  
フィールドノート

学ぶ	調べる
自然史データの計り方	データベース:
標本の作り方・調べ方	自然史系学術標本リスト
パラタクソノミスト養成講座	昆虫標本 SEHU
DIWPA/IBOY	化石標本
	中根猛彦コレクション
	自然史情報閲覧ページ
	「日高山脈の自然史」
その他の読み物	フィールドノート

図1 電子博物館のトップページ